

南城市地域公共交通再編実施計画の改定概要

令和4年10月

南 城 市

1 見直し内容

1.1 見直し概要

- 2022 年度 4 月に、支線バス（Nバス）のルート、便数の見直しや、豊見城営業所の開設に伴う幹線バス（路線バス）の見直しを行いました。その後の利用状況を踏まえ、再度、幹線バスの見直しを行うことになりました。
- 今回の見直しで、39 番系統、339 番系統、40 番系統、309 番系統の休日の減便と、391 番系統の新設とそれに伴う 191 便の減便を行います。

表 1.2022 年度(第 2 回)の主な見直し内容

区分	系統	見直し内容	
支線バス (Nバス)	—	見直しなし	
幹線バス (路線バス)	国道 331 号（佐敷・知念方面）	39	休日の減便
		339	休日の減便
		191	平日、休日の減便
		391	路線の新設
	県道 48 号線・86 号線（大里・玉城方面）	40	休日の減便
		309	休日の減便
	国道 331 号・県道 17 号線（玉城方面）		見直しなし
県道 77 号線（大里方面）		見直しなし	

1.2 幹線バスの見直し

(1) 国道 331 号（佐敷・知念方面）

- 国道 331 号（佐敷・知念方面）では、39 番系統、339 番系統の休日で、それぞれ 2 便、8 便減便します。

表 2. 国道 331 号（佐敷・知念方面）の再編概要(1/2)

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
37 番	那覇新開線	32 便	東陽バス	新里～馬天営業所行、新里～市役所行に分岐し、ほとんどの便が南城市役所発着。	南城市役所発着	沖縄バスの 39 番、339 番、41 番系統と等間隔運行を実施。
38 番	志喜屋線	32 便	東陽バス	朝夕のみ運行し、斎場御嶽発着の 338 番系統を新設。	同左	
338 番	斎場御嶽線	—	東陽バス	斎場御嶽発着で、斎場御嶽線を新設。	同左	
39 番	百名線 ※再編後は南城線	46 便	沖縄バス	南城市役所発着に変更。	市内は同左 2022 年度（1 回目）に一部便が豊見城営業所まで運行区間を延長	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。2020 年度より増便。 2022 年度（2 回目）見直して休日 18→16 便に 2 便減便
339 番	南城～結の街線	—	沖縄バス	南城市役所発着で、結の街線を新設。	市内は同左 2022 年度（1 回目）より開南経由を新設。	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。2020 年度より増便。 2022 年度（2 回目）見直して休日 12→4 便に 8 便減便
41 番	つきしろの街線 ※再編後はつきしろの街（百名経由）線	10 便	沖縄バス	南城市役所発着～西つきしろ間～百名～市役所に運行区間を延長。	2022 年度（1 回目）に廃止、39 番に統合	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。

※表の「平日便数」は 2019 再編前

- また、191 番系統を、サンエーパルコシティまで延伸する形で、391 番系統を新設し、これに伴い既存の 191 番系統は平日、休日ともに減便します。
- なお、191 系統と 391 系統とあわせた便数は、平日は、2022 年度（第 1 回）再編時と同じ 36 便、休日は、2022 年度（第 1 回）再編時の 22 便を 4 便上回る 26 便の運航となります。

表 3.国道 331 号(佐敷・知念方面)の再編概要(2/2)

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
191 番	城間線	32 便	東陽バス	変更なし。	新里～馬天営業所間から新里～南城市役所に経路を変更。	事業者にて、南城市役所までの乗り入れ可能性を検討。 ※91 番は 2018(平成 30)年 12 月 22 日に廃止し、191 番へ統合 2022 年度(2 回目)見直して 391 番系統の新設に伴い、平日 36 便→16 便へと 20 便、休日 22 便→10 便へと 12 便減便
391 番	城間線(サンエーパルコシティ)	—	東陽バス	—	2022 年度(2 回目)見直してサンエーパルコシティ～城間～鳥堀～馬天営業所を連絡する路線として新設	新設。 平日 20 便、休日 16 便運行

※表の「平日便数」は 2019 再編前

～ 参考 391 番系統のサンエーパルコシティ側の運行経路 ～





図-1.国道 331 号(佐敷・知念方面)の幹線バスの再編内容

(2) 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面)

●県道 48 号・86 号線 (大里・玉城方面) では、2022 年度 (2 回目) で、40 番系統、309 番系統の休日で減便します。

表 4. 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面) の再編概要

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
40 番	大里線	42 便	沖縄バス	一部便を南城市役所まで延伸。大里第二団地経由は廃止。	2020 年 4 月より大城駐機場止まりは廃止。	結の街 (浦添市国立劇場前) 発着を設け、309 番系統として新設。 2022 年 5 月より減便。 2022 年度 (2 回目) 見直して休日 14→10 便へ 4 便減便
309 番	大里～結の街線	—	沖縄バス	結の街～大城・市役所を結ぶ路線を新設。	2020 年 4 月より大城駐機場止まりは廃止。 2022 年 5 月より一部便がパルコまで延伸。	新設。 2022 年 (2 回目) 見直して休日 10→8 便へ 2 便減便
109 番	大里線	6 便	沖縄バス	廃止。	廃止。	40 番と統合。
51 番	百名線	17 便	琉球バス	変更なし。	百名バスターミナルから南城市役所まで延伸。	地域公共交通確保維持事業の補助路線であることから、関係市町村との調整が必要。
53 番	志喜屋線	17 便	琉球バス	51 番と統合、富里～奥武間、百名 BT～志喜屋間の廃止。		//
54 番	前川線	4 便	琉球バス	変更なし。	変更なし。	

※表の「平日便数」は 2019 再編前



図-2. 県道 48 号線・86 号線(大里・玉城方面)の幹線バスの再編内容

2 収支の見直し

2.1 再編事業の事業費

(1) 支線バス

●支線バスの事業費は、今回見直しで変更がないため、前回見直しの2022年度(1回目)と同額です。

表 5.2022 年見直し時の支線バスの事業費

系統番号	運行主体	運行区間	事業費 (千円)
A-1/A-2 知念・佐敷一周線	沖縄バス	市役所～馬天～佐敷～安座真～志喜屋～百名～親慶原～市役所	33,000 /33,000
A-3 知念・佐敷一周線(つきしろ経由)	沖縄バス	東つきしろ～馬天小前～佐敷小前～知念小前～市役所	0 /0
B-1/B-2 ニライカナイ橋・つきしろ線	沖縄バス	市役所～親慶原～安座真～佐敷～馬天～市役所	26,700 /26,700
C-1/C-2 玉城・大里一周線	沖縄バス	市役所～親慶原～百名～奥武～船越～稻嶺～仲程～大城～市役所	28,300 /28,300
D-1 玉城東回り線	沖縄バス	玉城東地域を回る通勤・通学ルート	1,800 /1,800
D-2 玉城東回り線(向陽高校経由)	沖縄バス	玉城地域及び向陽高校下校時のルート	3,100 /3,100
E 知念南回り線	沖縄バス	市役所～つきしろの街～志喜屋～百名～市役所	0 /0
F-1 玉城西回り線	沖縄バス	市役所～系数～前川～湧稲国～船越～市役所	700 /700
F-2 玉城西回り線(玉城幼稚園経由)	沖縄バス	喜良原～系数～前川～船越～玉城幼稚園～市役所	600 /600
F-3 玉城一周線(玉泉洞経由)	沖縄バス	市役所～玉幼～愛地～堀川～百名～親慶原～市役所	1,000 /1,000
G 向陽高校線(大里経由)	沖縄バス	市役所～嶺井～仲程～湧稲国～船越～向陽高校入口	800 /800
H 知念高校線(大里経由)	沖縄バス	市役所～知念高校～仲程～湧稲国～系数～市役所	0 /0
計			96,000 /96,000

※上段が2022年度(1回目)、下段が2022年度(2回目)

支線バスの事業費は、路線別の年間の走行キロに燃料費を乗じ、人件費及び車両費は各系統で共有しているため、全体の費用を年間の走行キロで按分して路線毎に割り当てて算出しています。

(2) 幹線バス・デマンド交通

- 幹線バスの事業費は、減便等により 2022 年度（1 回目）の 107,700 千円/年から、2022 年度（2 回目）は 106,100 千円/年と 1,600 千円/年減少します。
- デマンド交通は、2022 年度（1 回目）、2022 年度（2 回目）ともに、44,300 千円/年で変化はありません。
- 全体の事業費は、2022 年度（1 回目）の 248,400 千円/年から、2022 年度（2 回目）は 246,400 千円/年へと 1,600 千円/年減少します。
- なお、前回見直しまでは、路線の見直し予定がなかった 191 番系統は収支等の計算対象に含めていませんでしたが、今回、便数の見直しを行うこととなったため、2022 年度（1 回目）の計算から、191 番系統を含めて算出しています。

表 6.2022 年度(2 回目)見直し時の幹線バス・デマンド交通・全体の事業費

区分	系統番号	運行主体	運行区間	車両	運転手	事業費 (千円)
幹線バス	37 番系統	東陽バス	那覇 BT~馬天入口~新里~馬天営業所・南城市役所	13	23	11,700 /11,700
	38 番系統	東陽バス	那覇 BT~馬天入口~志喜屋			7,400 /7,400
	338 番系統	東陽バス	那覇 BT~馬天入口~斎場御嶽入口			8,400 /8,400
	191 番系統	東陽バス	屋富祖~鳥堀~馬天営業所			7,100 /3,500
	391 番系統	東陽バス	サンエーパルコシティ~城間~鳥堀~馬天営業所			0 /4,600
	39 番系統	沖縄バス	那覇 BT~馬天入口~南城市役所	5	9	8,200 /8,000
	339 番系統	沖縄バス	結の街~那覇 BT~南城市役所			3,300 /2,500
	41 番系統	沖縄バス	那覇 BT~馬天入口~南城市役所・西つきしろ・百名			0
	40 番系統	沖縄バス	那覇 BT~大城・南城市役所	4	8	15,100 /14,100
	109 番系統	沖縄バス	廃止			—
	309 番系統	沖縄バス	結の街~那覇 BT~大城・南城市役所			12,000 /11,400
	51 番系統	琉球バス	那覇 BT~稲嶺十字路~玉城中学校前~百名 BT	13	20	15,200 /15,200
	53 番系統	琉球バス	廃止			—
	50 番系統	琉球バス	那覇 BT~向陽高校~中山~百名 BT・南城市役所			14,300 /14,300
	36 番系統	沖縄バス	糸満 BT~仲程~馬天入口~南城市役所	他系統と運用		5,000 /5,000
	小計		35	60	107,700 /106,100	
デマンド交通	おでかけなんじい	鏡原第一交通	久高島を除く南城市内全域	3	6	44,300 /44,300
計				44	77	248,000 /246,400

※上段が 2022 年度(1 回目)、下段が 2022 年度(2 回目)

幹線バスの事業費は、路線別の年間の走行キロに走行キロあたり運行経費を乗じて算出しています。

2.2 再編事業の収入見込み

- 2022年度（2回目）の見直しで、幹線バスの減便や、路線の新設等が路線の統廃合や増減便が行われますが、市内区間の利用者数については、同一区間の代替路線を利用することで変化しないと想定し、2022年（1回目）と同じ212,500千円/年を見込んでいます。

表 7.再編事業の収入見込み

区分	収入見込み	備考
支線バス	45,300千円/年	回数券の収入も含む
幹線バス	161,900千円/年	
デマンド交通	5,300千円/年	
計	212,500千円/年	

2.3 収支の見込み

(1) 支線バス

●支線バスの収支は、2022年度（1回目）から見直しができないため、前回同様に50,700千円/年の赤字の見込みとなります。

表 8.支線バスの収支見込み

系統名	年間収入 (千円)	年間支出 (千円)	年間収支 (千円)	収支率
A1: 佐敷・知念・百名線	18,900	32,900	▲ 14,000	57%
A2: 百名・知念・佐敷線	18,900	32,900	▲ 14,000	57%
B1: 佐敷・ニライカナイ橋・つきしろ線	7,200	26,300	▲ 19,100	27%
B2: つきしろ・ニライカナイ橋・佐敷線	7,200	26,300	▲ 19,100	27%
B3: つきしろ線	200	600	▲ 400	33%
	200	600	▲ 400	33%
C1: 玉城・大里線	12,100	28,200	▲ 16,100	43%
C2: 大里・玉城線	12,100	28,200	▲ 16,100	43%
	900	1,800	▲ 900	50%
D1: 玉城東回り線	900	1,800	▲ 900	50%
	1,700	3,100	▲ 1,400	55%
D2: 玉城東周り線(向陽高校経由)	1,700	3,100	▲ 1,400	55%
F1: 玉城西回り線	200	700	▲ 500	29%
	200	700	▲ 500	29%
F2: 玉城西回り線(玉城こども園経由)	200	600	▲ 400	33%
	200	600	▲ 400	33%
F3: 玉城一周線(玉泉洞経由)	400	1,000	▲ 600	40%
	400	1,000	▲ 600	40%
G: 向陽高校線(大里経由)	100	800	▲ 700	13%
	100	800	▲ 700	13%
回数券	3,400	0	3,400	
	3,400	0	3,400	
計	45,300	96,000	▲ 50,700	47%
	45,300	96,000	▲ 50,700	47%

※上段が2022年度（1回目）、下段が2022年度（2回目）

(2) 幹線バス

●幹線バスの収支は、2022年度（1回目）の54,200千円/年の黒字に対し、2022年度（2回目）は、55,800千円/年の黒字と、黒字が1,600千円/年増加する見込みとなっています。

表 9.幹線バスの収支見込み

系統名	収入(千円)			支出(千円)			収支(千円)			収支率		
	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減
37番系統	15,500	15,500	0	11,700	11,700	0	3,800	3,800	0	132%	132%	0%
38番系統	23,900	23,900	0	7,400	7,400	0	16,500	16,500	0	323%	323%	0%
338番系統	26,800	26,800	0	8,400	8,400	0	18,400	18,400	0	319%	319%	0%
191番系統	5,900	2,600	▲ 3,300	7,100	3,500	▲ 3,600	▲ 1,200	▲ 900	300	83%	74%	-9%
391番系統	0	3,300	3,300	0	4,600	4,600	0	▲ 1,300	▲ 1,300		72%	72%
39番系統	24,700	24,700	0	8,200	8,000	▲ 200	16,500	16,700	200	301%	309%	8%
339番系統	5,000	5,000	0	3,300	2,500	▲ 800	1,700	2,500	800	152%	200%	48%
41番系統	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
40番系統	13,500	13,500	0	15,100	14,100	▲ 1,000	▲ 1,600	▲ 600	1,000	89%	96%	6%
109番系統	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
309番系統	9,000	9,000	0	12,000	11,400	▲ 600	▲ 3,000	▲ 2,400	600	75%	79%	
51番系統	13,000	13,000	0	15,200	15,200	0	▲ 2,200	▲ 2,200	0	86%	86%	
53番系統	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
50番系統	23,900	23,900	0	14,300	14,300	0	9,600	9,600	0	167%	167%	0%
36番系統	700	700	0	5,000	5,000	0	▲ 4,300	▲ 4,300	0	14%	14%	0%
琉球バス交通	36,900	36,900	0	29,500	29,500	0	7,400	7,400	0	125%	125%	0%
沖縄バス	52,900	52,900	0	43,600	41,000	▲ 2,600	9,300	11,900	2,600	121%	129%	8%
東陽バス	72,100	72,100	0	34,600	35,600	1,000	37,500	36,500	▲ 1,000	208%	203%	-6%
計	161,900	161,900	0	107,700	106,100	▲ 1,600	54,200	55,800	1,600	121%	129%	

※上段が2022年度（1回目）、下段が2022年度（2回目）

(3) デマンド交通

●デマンド交通の収支は、運行計画に変更がないことから、2022年度（1回目）と同じ39,000千円/年の赤字となります。

表 10.デマンド交通の収支見込み

区分	収入	支出	収支	収支率
2022年度(1回目)	5,300	44,300	▲ 39,000	12%
2022年度(2回目)	5,300	44,300	▲ 39,000	12%
増減	0	0	0	0%

(4) 収支のまとめ

- 2022年度(1回目)の収支は、全体で35,500千円/年の赤字に対し、2022年度(2回目)の収支は33,900千円/年の赤字となっており、収支は、1,600千円/年改善される見込みです。

表 11.2022年度(2回目)再編の収支見込みのまとめ

	収入			支出			収支		
	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減
支線バス	45,300	45,300	0	96,000	96,000	0	▲ 50,700	▲ 50,700	0
幹線バス	161,900	161,900	0	107,700	106,100	▲ 1,600	54,200	55,800	1,600
デマンド交通	5,300	5,300	0	44,300	44,300	0	▲ 39,000	▲ 39,000	0
計	212,500	212,500	0	248,000	246,400	▲ 1,600	▲ 35,500	▲ 33,900	1,600

2.4 2022年再編の評価のまとめ

- 2022年(2回目)の再編により、幹線バスが減便されることで、総走行台キロは、2022年度(1回目)の111万5千km/年から、110万2千km/年へと1万3千km減少します。

表 12.2022年度(2回目)再編での総走行台キロの変化

	2022年度 (1回目)	2022年度 (2回目)	増減
支線バス	655,000	655,000	0
幹線バス	460,000	447,000	▲ 13,000
計	1,115,000	1,102,000	▲ 13,000